



木棚簡易固定ブラケット 取扱説明書

本書はSSシステムの施工・取り扱い・注意事項を記載しています。
必ず御施主様へお渡しください。



株式会社 **ロイヤル**

<https://www.royal-co.net/>

本 社/〒577-0012 大阪府東大阪市長東1-4-15
TEL:(06)6789-1234(代) FAX:(06)6789-1231

東京支店/〒130-0023 東京都墨田区立川3-6-8
TEL:(03)3634-6180(代) FAX:(03)3635-5766

RYL-SSVOL5-2309

SSシステムを施工される方

施工される前に必ずお読みください。また届きました商品サイズ、色、数量のチェックを行なってください。品質の管理は徹底して行なっておりますが、万一品質に不良がありました際は、販売店または弊社までご連絡ください。保証内容につきましては裏面のページまたは、弊社ホームページをご確認ください。



木下地（芯柱・間柱）・下地合板（12mm以上）にサポートをビス固定してください。下地のない位置へサポートを取り付けるとビスやサポートが抜け落ちてしまいます。



柱の取り付け施工は上下を間違えず、水平・平行・垂直を正確に出して行なってください。精度が低い場合、棚などの可動困難やガタつき、不確実装着による突然落下の恐れがあります。



ビス穴は間引いたりせず全てビスもみしてください。間引いた場合耐荷重が著しく低下、及び壁面ゆがみの原因となります。



タッピングビスは正確にまっすぐ取り付けてください。はみ出した頭や斜めになったビス本体で棚受けの爪をしっかりスリット穴に装着する事ができず、耐荷重低下の恐れがあります。



タッピングビスは適正工具・適正トルクで正しく取り付けてください。過剰トルクではビス頭部弱化による耐荷重低下やドライバークロス破損による取り付け失敗の恐れがあります。



接着剤や酸性薬品は錆びの原因となります。また、養生は必ず専用の微粘着性のものをご使用ください。ガムテープや乾燥後のクロス剥がしは、塗装製品の場合剥がれの原因となります。



面取り加工をして出荷いたしますが、切断面でのケガや破損事故などない様きれいに面取り加工をするか何らかの保護材で覆い安全を確保してからご使用ください。

お施主様

ご使用になる前に必ずお読みください。間違った方法での設置や移動、また収納を行なうと思わぬ事故やケガに至る可能性がありますので、取り扱いには十分に注意してください。本書にそわず取り扱いを行なった場合につきましては、弊社での保証は致しかねますのでご了承ください。



この表示を無視して誤った取り扱いを行なうと使用者などが傷害(※1)を負うことが想定されるか、物的損害(※2)の発生が想定される危害・損害の程度を示す。
(※1)傷害とは、治療入院や長期の通院を要さない、ケガ、やけど、感電などをさす。
(※2)物的損害とは、家屋・家財に関わる拡大損害をさす。



「してはいけない」を示します。



「必ず行なうこと」を示します。



絶対に棚板の上に乗らないでください。破損・落下・転倒してケガをする恐れがあります。



絶対に棚パイプにぶらさがらないでください。破損・落下・転倒してケガをする恐れがあります。



ブラケットより極端に前にはみ出す棚板は使用しないでください。先端に荷重がかかった場合、後部はね上がりとなります。（特に簡易固定ダボでの固定の場合は注意）



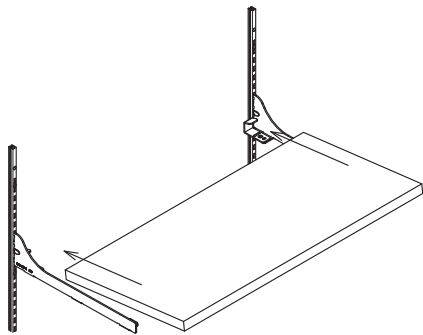
ビス止めされた棚板のレイアウトを変更する時は、1人で作業をしようとせず、安全のため2人で行なってください。思わぬ事故やケガに至る恐れがあります。



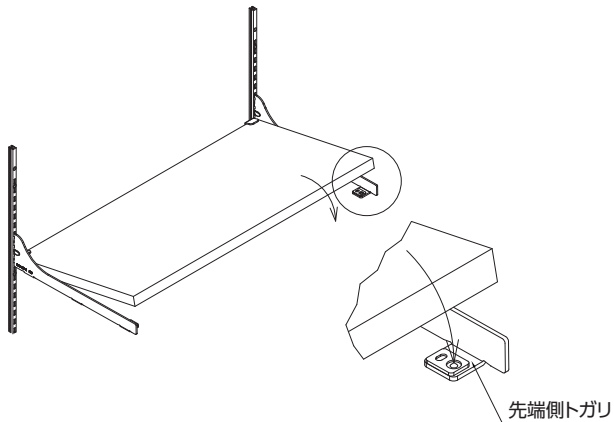
使用するサポート、使用するブラケットによって安全目安重量が違います。安全目安重量をご確認いただき、収納物の重量を考慮してください。

取り付け方法

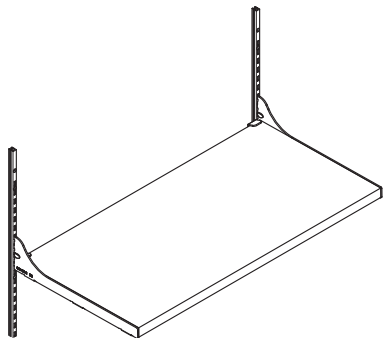
■ ブラケット本体への棚板の取り付け方法



①設置した棚受けの壁面側コノ字金具に木棚を手前側から軽く押し込む。（左右同時に）



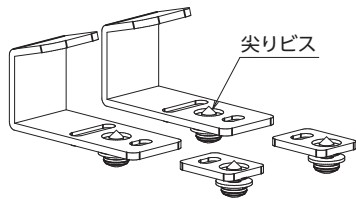
②棚板を軽く押し込みながら棚板の手前側を棚受け先端側の尖りに対して軽く押し付ける。（押さえ過ぎない様に注意）



③棚板手前側を軽く下に押えた状態で前後左右に軽く動かして固定されていることを確認。設置は完了です。

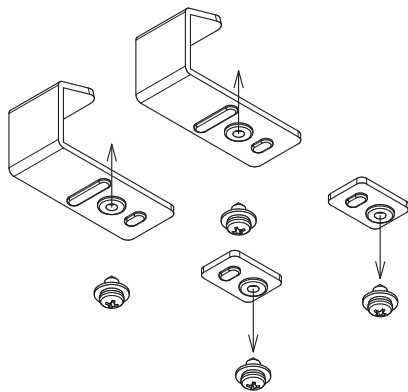
※対応木棚板厚み：20 mm
※対応木棚板寸法：D300 × W450 mm～
※あくまで簡易固定タイプの棚板固定パーツとなりますので、しっかりと固定が必要な場合は直接ビス止めをする仕様に変更してください。また棚板の着脱を繰り返す事で固定力が低下した場合も必要に応じて直接ビス止めをする仕様にしてください。
※尖り部分で棚板を固定する為、棚板に若干の凹みが生じます。

■ 金具のブラケットへの取り付け方法



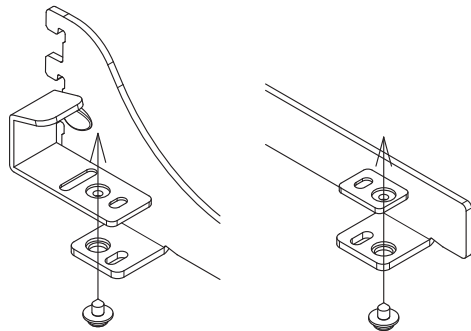
①製品確認

図の通りに不足が無いご確認ください。
尖りビスは金具に付いた状態で出荷されます。
コの字金具：2 個
平金具：2 個
尖りビス：4 個



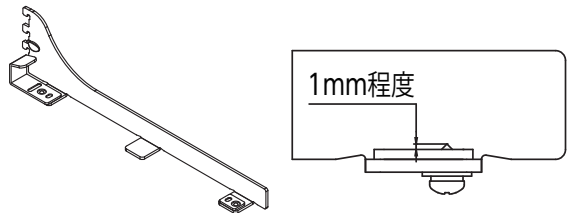
②尖りビス取り外し

全ての尖りビスを金具から外してください。
※紛失に注意してください。



③金具取付

ブラケット本体と金具を挟む様に尖りビスで締め込んでください。その際金具の凸部分をブラケット側の穴に合わせてください。ブラケット L/R 共に組み付けてください。



④取り付けチェック

尖りビスが金具上面より 1 mm程度出ていれば正しく取付されています。

警告・注意

SSシステムをご使用になる前に下記、警告・注意事項・メンテナンスをよくお読みいただき、正しく安全にご使用ください。

警告

- ①警告を守らない場合、前触れなく棚が落下するなどの突然の事故、その他破損事故が発生する恐れがあります。
- ②注意を守らない場合、施工作業中の事故や通常使用動作に伴う人身事故、破損事故の発生
又は製品そのものの機能を果たさなくなる恐れがあります。
- ③他社製品との併用はお止めください。たとえ取り付けが可能であっても、材質や製造方法の違いにより耐荷重性能や安全性が確保できない恐れがあります。
- ④棚を設置する場合は必ずブラケットを同じ高さに取り付けてください。
段違いに取り付けを行なうと棚板や収納物のガタツキや脱落の原因となります。
- ⑤部品が確実に取り付けられていることをご確認ください。（ブラケットツメ部分嵌合など）
取り付けが不十分な場合、部品・収納物が落下してケガをする恐れがあります。
- ⑥棚板の上には乗らないでください。破損・落下・転倒してケガをする恐れがあります。
- ⑦パイプにぶらさがらないでください。破損・落下・転倒してケガをする恐れがあります。
- ⑧安全目安荷重値よりも重いものを収納しないでください。
部品・収納物が落下してケガをする恐れがあります。
- ⑨安全目安荷重値以内であっても、集中的な荷重や、乱暴な積載は避けください。
- ⑩荷重は壁で支えます。製品取り付け前に必ず丈夫な壁下地があることをご確認ください。
部品・収納物が落下してケガをする恐れがあります。
- ⑪他社製品（木棚）を使った場合はブラケットの安全目安荷重ではなく木棚の規格（JIS など）をお守りください。
- ⑫サポート類は上下を逆にせず、必ず商品に記載の上下をお守りください。ブラケットのツメがスリットに入らなくなり、落下事故につながります。
- ⑬当社製品のご使用にあたり、予め建物の設計・施工についてもご確認の上、対応ください。
また、建物自体の変形、入居後における増改築や改修等の場合も十分ご確認の上、対応ください。

注意

- ①当 SS システムはロイヤルの別ブランド「AA システム」と互換性がありません。
- ②SS システム「シューノ 19」と「シューノ 32」は互換性がありません。
- ③当社製品はすべて屋内用です。屋外では使用しないでください。
室内であっても部屋内外の温度差が著しく違う部位には使用しないでください。
同じく極端に乾湿を繰り返したり、著しく高温・多湿となる部位には使用しないでください。
製品不具合の原因となります。
- ④製品に直接水をかけたり、濡れたものを置いたりしないでください。製品不具合の原因となります。
- ⑤棚板やハンガーパイプのレイアウトを変更する時は、1 人で行なわず安全のために 2 人で行なってください。
- ⑥製品の改造はしないでください。製品の強度が失われる可能性があります。
- ⑦カタログに記載している製品のカット対応は行ないますが、カット後の切断面については耐食性が低下しますので、サポートについてはサポートキャップの使用をお薦めいたします。
- ⑧製品に粘着テープ（養生テープ・セロハンテープ・シール等）は貼らないでください。
製品表面の不具合の原因となります。
- ⑨溶剤・薬品・油・インクなどが付着した場合はすぐに拭き取ってください。放置するとシミや変色の原因になります。
- ⑩埋込施工の場合、クロス糊や塗装がサポート面に付着しないようにご注意ください。
サポート面の錆や剥がれの原因となります。
- ⑪サポートやパイプをカット加工した場合、切断面から錆が発生する可能性があります。
- ⑫入居者または第三者の不適切な使用またはメンテナンス等についても十分ご注意ください。
製品不具合の原因となります。

メンテナンス

- ①日常のお手入れは乾いた柔らかい布で拭いてください。
有機溶剤や研磨剤の入ったクリーナーを使用すると製品のサビ、剥離の原因となります。
- ②収納内部には湿気がこもりがちです。結露やカビの発生原因にもなりますので、時々内部の収納物を出して、十分な換気を行なってください。

品質保証について

対象製品

保証の対象製品は、原則として当カタログ掲載製品とします。（特注製品は含みません。）
◎当社が保証いたしますのは、対象商品を当社から直接ご購入いただいた場合に限りです。

保証事項

通常的环境下で、当社のカatalog・施工説明書・取扱説明書に準じた正常な施工・使用がなされている状態で
当社の責任に起因する製品の不具合に関しましては、当社製品のみ無償で対応いたします。
尚、本内容は日本国内においてのみ有効です。

保証期間

保証期間は検収日から 1 年間とします。
当社製品の検収後（引渡後）に発見された、当社の責任に起因する製品の不具合を無償で対応する期間として
おります。保証期間経過後の対応については有償となります。

免責事項

- 製品の不具合原因が次のような場合には、保証期間内であっても保証対象外になります。
- ①カタログ・取扱説明書・施工説明書・ホームページに記載された用途及び方法以外の施工
あるいは使用に起因する不具合。
 - ②使用上及び施工上の不備または不当な改造、不適切な維持管理による不具合。
 - ③天災その他自然現象・周辺環境または製造時に実用化されていた技術では予測することが
不可能な事象に起因する不具合。
 - ④経時変化による通常一般的な変褪色、汚れ、サビ、カビ、劣化摩耗などの不具合。
 - ⑤犬・猫・鳥・鼠などの動物の害に起因する不具合や虫害に起因する不具合。
 - ⑥仕上面の傷、凹みなどの不具合など検収時に容易に発見できる不具合。
 - ⑦日本国内以外での使用による不具合。
 - ⑧下地材が関係する性能（防火性能、壁強度など）に関する不具合。

性能保証

- ①下地材に係る性能（防火性能、壁強度など）は、設計・施工を伴う総合的な性能である為、保証対象外とします。
- ②カタログ等に表記している各種性能データ等は一定の条件下で測定された参考値であり、保証値ではありません。
保証方法保証期間内に「保証事項の対象となる不具合」が生じた場合、次の方法により対処します。
・代替製品の無償提供
尚、当社が出張しての交換・修理を行なうことはできませんので、ご了承ください。

◎カタログの改編のタイミングにより、WEB に掲載の情報と差異が生じる場合がございます。ご了承ください。